

# 平成28年度 学校自己評価システムシート（県立入間向陽高等学校）

目指す学校像	「ひたむきに、おおらかに、たくましく」未来を生き抜く心身ともに健全な若人の育成
--------	---

重点目標	1 授業改善及び学習習慣の確立を通じた学習意欲の向上 2 行事等の実践を通じた自律的・基本的生活習慣の確立 3 生徒一人一人に即した進路選択とその実現 4 保護者参加と中学校・地域との連携強化による協力支援体制の確立
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	27名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 目 標			年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策			
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度は、大変落ち着いており、集中して課題等にも取り組んでいる。継続して行っているアンケート結果より、半数以上の生徒が授業の理解はできていると回答しており、この傾向に変化はないが、授業への希望は、「説明をゆっくり」「内容を興味を引くように」が多く、生徒が自ら考え、意欲的に授業参加できる学力を身につけさせることが課題である。教職員は、生徒の実態や要望を踏まえ、理解を深めるため工夫や生徒の意欲を引き出す授業を模索・実践している。</li> <li>調査前の学習については、大半の生徒がよく取り組んでいる。しかし、予習・復習など日常的な学習は、十分とは言えない。</li> <li>科目選択については、引き続き進路と結び付けさせながら、学習意欲の向上にも結び付けていくことが大切になってくる。</li> </ul>	基礎的・基本的事項を重視した授業改善の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒・教職員アンケート結果を踏まえて、より一層興味・関心を持たせる授業・わかりやすい授業への創意工夫を実践し、生徒が自ら考え、意欲的に授業参加できる機会を増やす。</li> <li>家庭学習習慣化のための宿題・課題等の生徒への提示、また、初期学習指導をはじめとする学習習慣確立の取り組みを年間を通じて行い、「学ぶことの意味」「学習方法」等を考えさせ、学習に対する動機付けを行う。</li> <li>科目選択にあたり、進路と結び付けられるような情報提供と指導を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の授業アンケートの分析や職員間の研修を行い、教員間の共通理解を深めながら、授業改善への課題を明確にすることができたか。</li> <li>定期考査や長期休業明けのテストによって、家庭学習の習慣化を検証することができたか。</li> <li>また、初期学習をはじめとする学習習慣確立の取り組みが、効果を生む形で継続的に実施できたか。</li> <li>科目選択に関し、生徒に自分の進路を自覚させながら適切な情報提供と指導が行えたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度もアンケート結果を基にした研修会を行い、共通理解を深めた。生徒アンケートの結果では、「とても理解できる」まあまあ理解できる」が6割近くにのぼり、授業のレベルについても「現状のままでよい」が7割を超え、生徒の実態に合った授業が行われている。また、人間向陽高校をよくする会での意見交換から生徒は、参加型の授業を求めていることも明らかになっている。</li> <li>授業に、「集中している」「自主的に取り組んでいる」生徒が半数にのぼり、増加傾向にある。「初期学習指導」をはじめとする日常的な取り組みが、少しずつ生徒の意識を変えていることが確認できた。</li> <li>科目選択ガイダンスの実施により、1,2年生に対して進路指導と連携して適切な情報提供と指導を行うことができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き生徒へのアンケートを実施して、生徒の意識・実態を把握し、教員間のコンセンサスを形成しながら、生徒の主体的な授業参加と基礎的基本的な学力の定着を統一させた授業改善が望まれる。また、生徒の多様な進路希望を念頭に置き、大学受験への対応とその土台となる基礎的な知識や思考力を養成していくことも課題である。</li> <li>「初期学習指導」に引き続き取り組んでいくと共に、各学年とも、定期考査の結果や学期末の評価を、単なる結果の評価に終わらせず、自らの学習の振り返りと今後への課題を自覚させる機会ととらえ、授業や家庭学習への取り組みへとフィードバックしていく必要がある。</li> <li>引き続き、進路指導部が計画する進路ガイダンスとタイアップしながら、学年ごとに計画的な科目選択のガイダンスを実施し、選択科目を考えさせることが、将来の進路への意識を高め、ひいては学習意欲の向上に結びついていくように指導していく必要がある。</li> </ul>			
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶・礼儀など基本的生活習慣が身につけている生徒が多く、落ち着いた学校生活を送っている。</li> <li>SNSの使用について、研修会等を実施することで問題の拡大を防止できているが、引き続き、理解を深め、トラブル防止に取り組んでいく必要がある。</li> <li>生徒アンケートでは「向陽高校の一番の魅力」について「行事が盛んである」が第1位となるなど行事への期待が依然として高い。新入生歓迎会、体育祭、向陽祭、三年生を送る会の企画・立案・運営を生徒が組織的に運営するスタイルが定着し、全校生徒が積極的にかかわる「参加型の行事づくりは、全校生徒に浸透している。一層発展させていくために、各行事に取組む目的や意味について深めていく必要がある。</li> <li>生徒アンケートを受けて、食堂との協議を行うなど、食堂と生徒間で話し合いをする場が</li> </ul>	生徒一人一人の個性に即し、人間として望ましい資質の伸長を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員間の共通理解と協力体制の確立(特に服装指導・挨拶励行、時間厳守について)</li> <li>朝の登校指導、授業開始時の巡回の継続</li> <li>定期的な頭髪服装指導の実施</li> <li>社会生活におけるマナー向上の指導の一つとして情報セキュリティ研修会を企画する。</li> <li>HRを基礎として生徒会本部・各委員会が議論を深め、組織的な運営を推進。</li> <li>アンケートを踏まえ、生徒総会で議論を深め、生徒会として関係部署と協議できる機会の推進</li> <li>意欲、向上心を高める部活動の推進とそのための環境整備の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通理解と協力体制をつくることができたか</li> <li>登校指導、巡回指導が継続的に実施できたか</li> <li>教員の共通理解のもと、生徒との信頼関係に基づいた指導ができたか。</li> <li>効果的に研修会が実施できたか。</li> <li>生徒会活動が全校生徒の参加を視野に入れて原案作成、提案、実施を組織的に運営できたか。</li> <li>生徒の意見を踏まえて協議をもつことができたか。</li> <li>部活動加入率の維持向上ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の情報の共有につとめ、生徒指導部・担任の連携を強化した。</li> <li>日々の校門指導、授業開始時の巡回指導は今年度も全教員の協力のもとで継続することができた。</li> <li>学期始まりに、学年の教員により整容指導を行った。</li> <li>年度当初に全校に対してSNSの研修会が実施できた。整容指導について社会生活でのマナーや防犯上の必要性から理解を広げることができた。</li> <li>諸行事等での原案づくり、諸会議の運営、リハーサル運営など生徒会本部を中心に実行するスタイルは定着した。</li> <li>学食アンケートの結果や要望を伝え、学食との協議を重ねた。新メニュー</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>落ち着いた教育環境を維持するため全職員の協力体制を維持することが重要である。</li> <li>挨拶励行等、社会生活のマナーの向上を図る指導を継続していくことが重要である。</li> <li>SNS関連の問題は、件数は減ったが引き続き研修会を開き、指導していく必要がある。特に、新入生に対して指導を徹底することが重要である。整容指導もその必要性を今後も生徒に理解を広げていきたい。</li> <li>生徒会が中心となり原案を作り、運営を行い「参加型」の行事を創ることは大切なことである。しかし、「全校生徒参加型」の意識が希薄化してきている。各行事の目的や内容について議論を深め、生徒自ら主体的に考え原案作成ができるよう支援していく必要がある。</li> <li>身近な生活環境を改善していく取組を発展させていくため、アンケート</li> </ul>			

学校関係者評価	実施日 平成29年1月30日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、興味を引く授業、生徒の力を引き出す授業、そして生徒が参加できる授業を進めることが望まれる。</li> <li>グループワークも取り入れ、生徒が参加して理解を深める学習も必要であるが、生徒が参加するにあたっての予習・復習などの準備が大切である。そのため、グループワークだけでなく、講義や実験といったものとバランスよく組み合わせたい授業が求められている。</li> <li>学校で教える授業は、受験に特化したものではなく将来にわたっていると思うことのできる人間を育てる目標があり、生徒の要望を取り入れた授業改善に取り組んでいただきたい。</li> <li>授業の理解度は、「理解できる」「まあまあ理解できる」が半数以上であり、適切なレベルで授業は、行われている。</li> <li>生徒も努力して生徒の授業に取り組む姿勢よ、とても良くできている」が増加傾向にあり改善されてきている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNS の使用方法についての講習会は、その問題点がよくわかるので今後も続けてほしい。</li> <li>整容指導については、指導理由をほとんどの生徒は理解している。また、危機感のない生徒もいるので今後も指導の必要性について説明する場を定期的に設けてほしい。生徒に指導理由を理解させることは、本当に大切なこと。</li> <li>挨拶は、自分自身にとって大切なものという認識で身に付けてほしい。</li> <li>向陽高校の行事は、生徒のがんばりに加え教職員の指導・支援が絡んで盛り上がっている。さらに行事の質を高めるため、全校生徒参加型を進展させ、生徒が「参加」から「参画」へ関わりを強める工夫を各行事ごとに具体的に検討することが課題となっている。</li> <li>熊本地震支援募金に向陽祭で取組み、他者を思いやる気持ちが生徒に広がったことは喜ばしい。</li> <li>学食アンケートに取組み、学食の売り上げを改善</li> </ul>

	<p>設けられており、社会性を身につけ、生活環境を向上させていくための取り組みができています。</p> <p>・部活動が盛んで8割程度の生徒が3年間部活動を継続している。</p>				<p>一や自販機の改善を行う等、生活環境を改善する取組を続けている。</p> <p>・生徒会として新入生への部活動紹介等に取組、今年度も部活動加入者数は8割を超えている。</p>		<p>項目等の見直し及び結果分析を複眼的立場から深めさせる必要がある。</p> <p>・引き続き、部活動紹介、壮行会等に取組み、部活動の意義について広げて行きたい。</p>	<p>し、生徒の意見を反映できるようにしたい。エアコンの使用や鳩防止ネットによって快適に過ごせるようになった。</p>
3	<p>・進路について真剣に考えている生徒が多い。具体的な進路目標が持てるように、さまざまな職業・職種・進路先に関する知識を深めていきたい。</p> <p>・生徒は日々の授業を基本に、漢検や英検などの資格の取得をめざしたり、受験に向けて努力している。希望する進路を実現するためには受験に耐えうる学力・教養が求められる。教職員は協力して粘り強く指導をしていきたい。</p> <p>・進路指導にあたっては、様々な進路情報が必要となる。教職員・生徒・保護者が話し合うことで、生徒・保護者に適切な進路情報の提供ができるようにしていきたい。</p>	<p>生徒一人一人を大切にし、その進路実現を支援する。</p>	<p>・職業人講話で、社会人の話を聞くことで将来の職業を意識させ、目標を設定させる。また、進路見学会、分野別進路ガイダンスを通して上級学校や職業について知識を深める。</p> <p>・3年生の受験体験談会を通して進路意識・学習意欲を高める。授業を基本としながらも、補講、宿題確認テスト、スタディサポート、実力テスト、業者模試等をを学力増進の機会として活用し、受験対策とする。</p> <p>・面談などを通して生徒理解に努める。進路だよりの配布、保護者向けの進路ガイダンス、などで保護者への情報提供を行い、家庭と協力した進路指導を行う。</p> <p>・進路ホームルーム、進路ガイダンス等を利用して上級学校に関する情報を提供する。</p>	<p>・生徒が自分の将来について考え、上級学校や職業についての知識を深めることができたか。</p> <p>・進路意識・学習意欲を高め、進路実現に向けて学習に取り組んでいけるように、方策の検討・見直しはできたか。</p> <p>・進路先のこと、受験方法、受験費用等について生徒・保護者が正しく理解できているか。</p> <p>・教員が情報提供する環境を整備できたか。</p>	<p>・職業人講話は職業について知る良い機会となった。進路ガイダンスでは模擬授業を体験し、進路見学会では学校や職場を訪問した。生徒は自己の進路を真剣に考えて取り組んでいた。個人では職場訪問は難しく、良い経験となった。</p> <p>・模擬試験受験者、センター試験受験者が増えた。進学意識を高めるように学校全体で取り組んだ成果である。英検や漢検も補習を実施するなど合格につながった。看護・医療系進学者には入試を考慮して、公開会場の受験を勧めた。就職希望者は企業から一般常識やSPI、適正検査等で高い評価を得た。</p> <p>・保護者面談には進路部で資料を用意して進路情報を提供した。1、2学年は2月に進路保護者会を予定している。また、進学資金等の情報について専門家による保護者向け説明会を持つ予定である。</p> <p>・3学年は受験にむけて、各分野ごとにガイダンスを複数回行い、受験方法等について説明した。また、進路指導部と3学年の合同会議や専門学校研修会などを通して進学指導に必要な情報を提供した。</p>	B	<p>・職業人講話は、動機付けとして大変有効であり、継続的に取り組む必要がある。より、有効なものとするため、生徒の要望に基づいて分野配分を改善することが課題である。進路ガイダンスと進路見学会は実施後の振り返り学習を工夫したい。</p> <p>・大学進学では、高い目標を掲げ、最後まで受験勉強をやり切るよう学力増進に向けた努力を粘り強く促したい。そのために実力テストや模試などの受験準備について生徒の現状をふまえた具体的な工夫が引き続いての課題である。就職では、特に事務職を希望する生徒には資格の取得をすすめていきたい。</p> <p>・学校ホームページの進路部門を充実することができた。今後も継続していきたい。進路だよりは、次年度は定期的に発行できるように努力したい。</p> <p>・入学試験が多様化しており、その年の受験に対応する基準作りと情報が欠かせない。これからも学年と進路指導部が連携して取り組むことが必要だ。</p>	<p>・多様な進路希望の生徒がいるので、1、2年次の職業人講話、上級学校見学、分野別説明会等の行事は、進路選択の動機づけとして是非続けてほしい。より有効なものとするため話を聞く職業分野を自分で選択できるとよい。</p> <p>・進路選択の準備に早くから取組みやすくするため、引き続き1年次には「進路の手引き」を活用したHR、2年次には、3年次での進路スケジュールを理解できるよう進路HRを設定することが必要である。</p> <p>・進路の選択は、人に頼らず、生徒自身が自分のことを具体的に考える努力も必要である。</p>
4	<p>・PTA・後援会の役員・理事が中心となり、体育祭やマラソン大会の給水支援、正門前の花植え、部活動の視察による予算的な支援事業など生徒に直接かかわる取組みが積極的に行われている。PTA 活動を通じて保護者の学校参加が進められ、教育活動を支援する活動内容となってきている。</p> <p>・入間向陽高校をよくする会(学校評価懇話会)での意見交換は、生徒の成長を励ます教育的な場として機能している。また、学校の現状を多面的に捉え、相互理解が深まる場となる中で生徒が学校の生活環境を改善する活動を行うなど自治的な取組みを育てる場ともなり、主権者教育の一環としての意味を持つものとなっている。</p> <p>・学校説明会(3回)、中学校訪問、豊岡小学校との交流など教育活動への理解と信頼を深める中学校や地域との交流、連携の取組が定着している。</p>	<p>保護者参加に基づく地域に開かれた学校づくりの推進</p>	<p>・本部役員・各委員会の委員長と委員会担当の教員との連絡・協議を密にし、生徒理解を深めた学校の実情に基づいた取組みとなるよう本部・各委員会の計画立案とその実行に関わっていく。</p> <p>・引き続き生徒を成長させることを中心に意見交換を行うとともに学校と保護者、地域の信頼と協力関係を深める運営を行う。・事前に協議内容について論点整理を行い、当日の進行が円滑に行えるよう取り組む。</p> <p>・中学校、中学生、その保護者へ理解と信頼を深める学校説明会、中学校訪問、地域交流の企画・実施。</p>	<p>・本部・各委員会の計画立案に、その委員会の理事と委員会担当教員が組織的にかかわることができたか。</p> <p>・入間向陽高校をよくする会の意見交換の内容がアンケート等生徒の実情に基づくものであり、それぞれ生徒、保護者、教職員に還元され、共通理解を深める取組みが行われたか。</p> <p>・それぞれ事前に参加者と打ち合わせを行い論点整理ができたか。・中高連携、地域交流のあり方の共通理解ができ、効果的な連携・学校説明会等を実施できたか。</p>	<p>・本部委員会と担当教員が、諸行事について連絡を取り合い、原案作成を行い、計画から運営まで概ね順調に行うことができた。</p> <p>・体育祭、マラソン大会での給水活動、花植などの取組みが定着し生徒理解を深めることができた。本年度は挨拶運動も新たに実施され、保護者の学校参加が促進された。</p> <p>・生徒要望アンケートの分析に基づき、意見交換を行い、授業、進路、行事、施設設備等学校の現状について共通理解を深めることができた。生徒がオフィシャルな場で意見表明することが、生徒の意識を高め、主権者教育の一環として役立っている。PTA作成のDVDも上映され、学校関係者の学校参加と学校理解が促進されている。</p> <p>・学校説明会等7回、中学校訪問2回、豊小との交流、入間市の上級学校研究への協力等の取組みを行った。生徒の姿がよく伝わるよう工夫した取組みを行い、本校の教育活動への理解と信頼を高めることができた。</p>	A	<p>・給水活動や花植は定着し、今年から新たにを行った挨拶運動も生徒理解につながっている。こうした活動を進める中で役員外の方にも活動への参加が広がっている。今後もPTAの諸活動全般を通じて生徒理解を基礎にPTA活動と学校の連携を深め、信頼関係を強めていきたい。</p> <p>・生徒アンケートの分析に基づき意見交換を続けることで学校の現状と変化を考えることができていた。そのため生徒理解を深める貴重な場となっている。「よくする会」へのHRやPTAからの傍聴希望もあり、徐々に広がりを見せている。事前準備も丁寧に行われ、それが当日の意見交換の質を高めている。意見交換の内容も具体的に身近な内容に絞られてきている。今後とも引き続き、丁寧な準備を行っていきたい。</p> <p>・引き続き、学校説明会、中学校訪問、豊小との交流等に取組み、本校の教育活動への理解と信頼を高めていくことが求められている。</p>	<p>・親の目線で考えること、当事者である生徒の考えることは、違うこともある。生徒の成長を感じ取っているが、生徒理解を深めるかかわり方をPTAとして続けていきたい。</p> <p>・生徒会と学校がうまくリンクして建設的な話し合いができていくことに敬意を持つ。</p> <p>・いろいろな意見を聞くことができて学校の様子がよく分かった。</p> <p>・全校生徒からのアンケートに基づいた話し合いができて様々な方向から物事を考えることができた。</p> <p>・よくする会の名前のおりの話し合いとなり、生徒会活動もよくなっている実感を持てた。</p>